

(臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 組織学的通常型間質性肺炎 (UIP) を呈する特発性間質性肺炎 (IIPs) に於いて病理学的に Interstitial pneumonia with autoimmune features (IPAF) 所見の有無が予後・治療反応に与える影響についての検討

[当院研究責任者] 部署名 呼吸器・アレルギー疾患内科 氏名 山野 泰彦

[研究の背景] IIPs において UIP は予後不良な因子であるが、肺線維症 (IPF) と UIP パターンの間質性肺炎を呈する膠原病関連間質性肺炎 (CVD-UIP) の検討で、組織学的に胚中心を伴うリンパ濾胞を有する症例は予後良好の傾向を呈した報告があり、UIP 病変に膠原病を示唆する所見を認める一群の診断・治療選択・予後は注目されているが、未だに十分な検討はない。近年診断基準は満たさないものの膠原病の特徴を有する IIPs に対して Interstitial pneumonia with autoimmune features (IPAF) の概念が提唱された。UIP パターンの間質性肺炎を呈する IPAF は IPF と予後に差を認めないとの報告が散見されるが、これらの検討では外科的肺生検の施行は一部に限られ、また治療内容に関する検討は十分でない。また IPF の治療は抗線維化薬で、一方膠原病の治療は抗炎症薬であるが、両者の要素を併せ持つ一群の治療選択は不明のままである。

[研究の目的] 多分野合同会議によって診断された病理学的に UIP を呈する IIPs 患者に於いて、「病理学的 IPAF の有無」が予後に与える影響を明らかにする。また抗炎症薬、抗線維化薬の選択の意義についても検討する。

[研究の方法] すでに構築された「クラウド型統合データベース」を用いて、「特発性間質性肺炎患者で病理学的 UIP」を抽出し、「病理学的 IPAF 有無で層別」と比較する後ろ向き研究

[研究組織]

この研究は、当院・浜松医科大学で実施されます。

[個人情報の取扱い]

本研究は、先行研究によって構築された匿名化診療情報データベースを用いる。データが匿名化されているため、当該情報の利用の撤回の申し出があった場合でも、情報の研究への利用停止が極めて困難です。

[問い合わせ先] 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 山野泰彦
電話 0561-82-5101 FAX 0561-82-9139